

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4989717号

(P4989717)

(45) 発行日 平成24年8月1日(2012.8.1)

(24) 登録日 平成24年5月11日(2012.5.11)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 43/16 (2006.01)

B 6 5 D 43/16 1 O 1

B 6 5 D 43/22 (2006.01)

B 6 5 D 43/22 A

B 6 5 D 75/22 (2006.01)

B 6 5 D 43/16 Z

B 6 5 D 1/26 (2006.01)

B 6 5 D 43/16 A

B 6 5 D 75/22

請求項の数 3 (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2009-294884 (P2009-294884)
 (22) 出願日 平成21年12月25日(2009.12.25)
 (62) 分割の表示 特願平11-371853の分割
 原出願日 平成11年12月27日(1999.12.27)
 (65) 公開番号 特開2010-64797 (P2010-64797A)
 (43) 公開日 平成22年3月25日(2010.3.25)
 審査請求日 平成21年12月25日(2009.12.25)

(73) 特許権者 000000918
 花王株式会社
 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1
 O号
 (74) 代理人 100083806
 弁理士 三好 秀和
 (74) 代理人 100100712
 弁理士 岩▲崎▼ 幸邦
 (74) 代理人 100095500
 弁理士 伊藤 正和
 (74) 代理人 100101247
 弁理士 高橋 俊一
 (74) 代理人 100098327
 弁理士 高松 俊雄

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 包装容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

収容物が入る凹部を有する容器本体と、この容器本体にヒンジ部を介して連結されると共に、凸部を有する蓋体とから成り、これら凹部を形成する側壁と凸部を形成する側壁の前記ヒンジ部近傍の両側に係止部をそれぞれ設け、且つ前記凹部の周囲に設けた突き合わせ部と前記凸部の周囲に設けた突き合わせ部に係止部をそれぞれ設け、前記容器本体の収容物が入る凹部を前記蓋体の凸部に嵌合させる際に、前記凹部の側壁の前記ヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び前記凹部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部と前記凸部の側壁の前記ヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び前記凸部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部とをそれぞれ係止させることを特徴とする包装容器。

【請求項 2】

請求項 1 記載の包装容器であって、

前記凹部を形成する側壁の前記ヒンジ部の反対側と前記凸部を形成する側壁の前記ヒンジ部の反対側の両側に係止部をそれぞれ設け、前記容器本体の収容物が入る凹部を前記蓋体の凸部に嵌合させる際に、前記凹部の側壁の前記ヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部と前記凸部の側壁の前記ヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部とをそれぞれ係止させることを特徴とする包装容器。

【請求項 3】

請求項 1 記載の包装容器であって、

前記ヒンジ部にミシン目を形成して、前記容器本体から前記収容物を取り付けた前記蓋

体を切り離し可能にしたことを特徴とする包装容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、芳香具等の収容物を収容する包装容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の包装容器は、収容物が入る凹部を有する容器本体と、この容器本体にヒンジ部を介して連結された略平坦面状の蓋体とから構成されている。容器本体の周囲の凹部以外の平坦面部と、これに対応する蓋体の周囲には凹凸状の嵌合部がそれぞれ設けられている。

10

【0003】

そして、蓋体をヒンジ部を介して容器本体に合わせる閉方向に移動させると、互いの嵌合部が嵌合することで密閉状態となる。また、この密閉状態にあって、蓋体を容器本体に対して引き離す開方向に移動させると、互いの嵌合部間の嵌合が外れて容器本体の凹部が開放状態となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開平9-272583号公報

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、従来の包装容器では、容器本体と蓋体を再封止（再密閉）する際に、容器本体と蓋体の凹凸状の各嵌合部の強度が弱いため、容器本体の凹部と蓋体の密閉状態が保持できなかった。また、容器本体と蓋体の周囲の平坦面部同士を単に突き合わせることで容器本体の凹部が密閉状態となっているため、容器本体と蓋体との間が位置ずれし易く、さらに、容器本体や蓋体のゆがみ等によって容器本体と蓋体に隙間が発生し、この隙間から収容物が脱落するという問題があった。

【0006】

そこで、本発明は、前記した課題を解決すべくなされたものであり、容器本体と蓋体を簡単に再密閉でき、しかも収容物の脱落を確実に防止できる包装容器を提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1の発明は、収容物が入る凹部を有する容器本体と、この容器本体にヒンジ部を介して連結されると共に、凸部を有する蓋体とから成り、これら凹部を形成する側壁と凸部を形成する側壁のヒンジ部近傍の両側に係止部をそれぞれ設け、且つ凹部の周囲に設けた突き合わせ部と凸部の周囲に設けた突き合わせ部に係止部をそれぞれ設け、容器本体の収容物が入る凹部を蓋体の凸部に嵌合させる際に、凹部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凹部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部と凸部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凸部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部とをそれぞれ係止させる包装容器であり、請求項2の発明は、凹部を形成する側壁のヒンジ部の反対側と凸部を形成する側壁のヒンジ部の反対側の両側に係止部をそれぞれ設け、容器本体の収容物が入る凹部を蓋体の凸部に嵌合させる際に、凹部の側壁のヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部と凸部の側壁のヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部とをそれぞれ係止させる包装容器であり、請求項3の発明は、ヒンジ部にミシン目を形成して、容器本体から収容物を取り付けた蓋体を切り離し可能にした包装容器である。

40

【発明の効果】

【0008】

50

以上説明したように、請求項 1 の発明によれば、容器本体の収容物が入る凹部と蓋体の凸部とが嵌合される際に、凹部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凹部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部と凸部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凸部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部とがそれぞれ係止されるため、容器本体と蓋体とが強制的に位置合わせされ、ゆがみ等の発生が極力抑えられ、仮に容器本体や蓋体にゆがみ等が発生しても容器本体と蓋体との間に隙間が発生せず、収容物の脱落を防止できる。また、容器本体の収容物が入る凹部が蓋体の凸部に嵌合される構造であるため、開閉動作を繰り返しても密閉状態を確実に保持できる。特に、容器本体の凹部と蓋体の凸部との嵌合が凹部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凹部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部と凸部の側壁のヒンジ部近傍の両側に設けた係止部及び凸部の周囲の突き合わせ部に設けた係止部とのそれぞれの係止によってより強固になるため、収容物の脱落をより確実に防止できる。

10

【0009】

請求項 2 の発明によれば、容器本体の凹部と蓋体の凸部との嵌合が凹部の側壁のヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部と凸部の側壁のヒンジ部近傍の両側及び該ヒンジ部の反対側の両側に設けた係止部とのそれぞれの係止によってより一段と強固になり、収容物の脱落をより確実に防止できる。

【0010】

請求項 3 の発明によれば、容器本体と蓋体とを連結したヒンジ部にミシン目を形成したことによって、容器本体から収容物を取り付けた蓋体を簡単に切り離しできる。

20

【図面の簡単な説明】**【0011】**

【図 1】本発明の実施形態の台紙が装着された包装容器の密閉状態を示す斜視図である。

【図 2】本発明の実施形態の蓋体を開いた開放状態の包装容器を示す斜視図である。

【図 3】本発明の実施形態の包装容器の蓋体の背面の凹部内に芳香具を貼着した状態を示す背面図である。

【発明を実施するための形態】**【0012】**

以下、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。

【0013】

30

図 1、図 2 に示すように、包装容器 1 は、透明樹脂製の容器本体 2 と、ミシン目 3 を有したヒンジ部 4 を介して容器本体 2 と一体形成された蓋体 5 とから構成されている。

【0014】

容器本体 2 は、収容物を入れる凹部 6 と、この凹部 6 の周囲に設けられた突き合わせ部 7 とを有する。蓋体 5 は、容器本体 2 の凹部 6 の窪み方向と同一方向に突出する凸部 8 と、この凸部 8 の周囲に設けられた突き合わせ部 9 とを有する。

【0015】

そして、ヒンジ部 4 を中心に容器本体 2 と蓋体 5 とを互いに近接する閉方向に移動させることで凹部 6 と凸部 8 とが嵌合し、且つ、互いの突き合わせ部 7、9 同士が密接して凹部 6 を塞ぐ図 1 に示す密閉状態となり、ヒンジ部 4 を中心に容器本体 2 と蓋体 5 とを互いに離間する開方向に移動させることで凹部 6 と凸部 8 との嵌合が解除され、且つ、互いの突き合わせ部 7、9 同士が離間して凹部 6 内を開放する図 2 に示す開放状態となる。

40

【0016】

凹部 6 とこれに嵌合する凸部 8 は、ほぼ収容物の形状や大きさに応じて設定され、例えば複数枚の板状の芳香具（収容物）30 が収容される形状及び大きさに設定されている。図 3 に示すように、芳香具 30 は袋 31 に収納され、この袋 31 の中部の開口部 31a が容易に開口できるようになっている。

【0017】

容器本体 2 の突き合わせ部 7 及び蓋体 5 の突き合わせ部 9 には、密閉状態で同一位置となる箇所に互いに係止する第 1 の係止部 10、11 がそれぞれ設けられている。各第 1 の

50

係止部 10, 11 は、互いの部分に当接すると一方若しくは双方が弾性変形して進入を許容し、進入し終わると弾性復帰変形して係止するようになっている。即ち、容器本体 2 側の第 1 の係止部 10 は容器本体 2 の凹部 6 の窪み方向と逆方向に突出する略円筒状に突出形成され、蓋体 5 側の第 1 の係止部 11 は蓋体 5 の凸部 8 と逆方向に突出する略四角筒状の窪み形状に形成されている。

【0018】

容器本体 2 の凹部 6 を形成する側壁と蓋体 5 の凸部 8 を形成する側壁には、密閉状態で同一位置となる 4 箇所互いに係止する第 2 の係止部（係止部）12, 13 がそれぞれ設けられている。各第 2 の係止部 12, 13 は互いの部分が当接すると一方若しくは双方が弾性変形して進入を許容し、進入し終わると弾性復帰変形して係止するようになっている。即ち、容器本体 2 側の第 2 の係止部 12 は容器本体 2 の凹部 6 の他の側面より窪む溝形状に形成され、蓋体 5 の第 2 の係止部 13 は蓋体 5 の凸部 8 の他の側面より突出する凸状に形成されている。

10

【0019】

容器本体 2 のミシン目 3 の近傍には、左右一対の脚部 14, 14 が凹部 6 の窪み方向と同一方向に突出して設けられている。この一対の脚部 14, 14 の内面側は凹部 6 に開口されている。また、容器本体 2 と蓋体 5 とのミシン目 3 の近傍で密閉状態で同一位置となる箇所、即ち、一対の脚部 14, 14 の間の箇所には補助嵌合部 15, 16 がそれぞれ設けられている。尚、容器本体 2 の凹部 6 の一対の第 1 の係止部 10, 10 間の中央は円弧状に突出した円弧部 17 になっている。

20

【0020】

図 3 に示すように、蓋体 5 の背面には凸部 8 によって凹部 18 が設けられ、この凹部 18 が芳香具 30 の使用設置場所として利用される。蓋体 5 の突き合わせ部 11 には、容器本体 2 の突き合わせ部 7 より突き合わせされた状態で外側に突出するつまみ部 19 が設けられている。

【0021】

一方、図 1 に示すように、台紙 20 はカード状を有し、下部の両側に容器本体 2 の一対の第 1 の係止部 10, 10 が挿入される一対の丸孔 21, 21 が設けられ、上部には図示しないフックに吊り下げるための丸孔 22 が設けられている。

【0022】

次に、包装容器 1 の作用を説明する。まず、包装容器 1 に芳香具 30 を収容する場合を説明する。図 2 に示すように、開放状態の包装容器 1 にあって容器本体 2 の凹部 6 内に袋 31 に入った芳香具 30 を複数積層した状態で収容し、また、容器本体 2 の第 1 の係止部 10 に台紙 20 の丸孔 21 を挿入する。

30

【0023】

そして、ミシン目 3 を有したヒンジ部 4 を介して蓋体 5 を容器本体 2 に突き合わせる閉方向に移動させると、先ず補助嵌合部 15, 16 同士が嵌合を開始し、この嵌合で容器本体 2 と蓋体 5 との位置合わせがなされる。次に、容器本体 2 の凹部 6 と蓋体 5 の凸部 8 との嵌合が開始される。この嵌合動作が進み、互いの突き合わせ部 7, 9 同士が密接する少し手前で各第 1 の係止部 10, 11 同士及び各第 2 の係止部 12, 13 同士が突き当たり、この反力に抗して蓋体 5 を閉方向に更に移動させることにより、凹部 6 と凸部 8 とが完全に嵌合し、互いの突き合わせ部 7, 9 同士が密接すると共に、各第 1 の係止部 10, 11 同士及び各第 2 の係止部 12, 13 同士が係止状態となる。

40

【0024】

図 1 に示すように、包装容器 1 が密閉状態となると共に、台紙 20 が容器本体 2 と蓋体 5 とで一部が挟持されることによって装着される。この台紙 20 の丸孔 22 に図示しない吊り下げ用のフックを挿入することによって包装容器 1 が吊り下げられる。この状態は、例えば店頭販売時の吊り下げ販売態様に便利である。また、ヒンジ部 4 にミシン目 3 を形成し、その折れ目がフラットであるため、スタイディング性が良く、図 1 に示すように、包装容器 1 を一対の脚部 14, 14 で自立できる、従って、包装容器 1 を自立させること

50

によって場所を取らずに載置でき、例えばユーザの使用時や店頭販売の載置展示に便利である。

【0025】

また、台紙20が不要の場合には、台紙20を容器本体2の第1の係止部10に挿入することなく上述の密閉動作を行うと、台紙20を装着することなく包装容器1を密閉状態とすることができる。この場合にも、包装容器1を一对の脚部14、14で自立させることによって場所を取らずに載置できる。

【0026】

包装容器1の開放状態から密閉状態への動作にあって、補助嵌合部15、16による補助嵌合された後に容器本体2の凹部6と蓋体5の凸部8との嵌合がなされるため、嵌合が正確且つ容易にできる。また、密閉状態では、包装容器1が容器本体2の凹部6が蓋体5の凸部8に嵌合されるため、容器本体2と蓋体5とが強制的に位置合わせされてゆがみの発生が極力抑えられ、さらに、仮に容器本体2や蓋体5にゆがみ等が発生しても、容器本体2と蓋体5との間に隙間が発生せず、収容物である芳香具30の入った袋31の脱落を防止できる。そして、本実施形態のように、収容物が板状の物品（芳香具30）の場合にあってその脱落を確実に防止できる。また、容器本体2の凹部6が蓋体5の凸部8に嵌合される構造であるため、開閉動作を繰り返しても密閉状態を確実に保持できる。

【0027】

また、容器本体2の凹部6と蓋体5の凸部8に各第2の係止部12、13をそれぞれ設けたので、容器本体2と蓋体5との嵌合が各第2の係止部12、13によってより強固になるため、収容物である芳香具30の脱落をより確実に防止できる。さらに、容器本体2と蓋体5との嵌合は、容器本体2の凹部6と蓋体5の凸部8の各第2の係止部12、13のみならず、容器本体2の突き合わせ部7と蓋体5の突き合わせ部9の各第1の係止部10、11によって行うため、容器本体2と蓋体5との密閉状態がより確実に保持され、輸送時や落下時に包装容器1が開放される事故を防止できる。その上、各第1の係止部10、11を利用して台紙20の装着もなされる。

【0028】

次に、包装容器1から芳香具30を取り出す場合を説明する。図1の密閉状態の包装容器1にあって、容器本体2と蓋体5とをヒンジ部4のミシン目3を中心に引き離す開方向に移動させると、容器本体2と蓋体5の各第1の係止部10、11間及び各第2の係止部12、13間の係止状態が解除されて容器本体2と蓋体5とが離間され、容器本体2の凹部6が開放される。即ち、図2に示す状態となり、容器本体2の凹部6内の芳香具30の入った袋31を容易に取り出すことができる。

【0029】

また、取り出した芳香具30の入った袋31は、図3に示すように、両面テープ32で蓋体5の背面の凹部18に貼着し、芳香具30の入った袋31の開口部31aを開口して芳香具30の一部を露出させることによって包装容器1自体に設置できる。例えば、一对の脚部14、14で自立させて設置する場合にあって包装容器1が蓋体5の背面を下面として倒れたときに、凹部18内が突き合わせ部9と床等の設置面とによって密閉されるため、芳香具30の内容物が飛散せず、また、芳香具30が直接に床等の設置面に接触しないため、芳香具30の内容物が床等の設置面に付着して設置面を汚すこともない。

【0030】

さらに、台紙20が装着されていない密閉状態の包装容器1を開放する時に、蓋体5のつまみ部19が容器本体2の突き合わせ部7より突出しているため、容器本体2と蓋体5との最初の引き離し動作が容易にできる。

【0031】

尚、前記実施形態によれば、収容物を複数枚の板状の芳香具30の入った袋31とした場合を説明したが、収容物の形状、種類、枚数を問わない。また、収容物は板状でなくても良く、芳香具30でなくても良く、複数枚でなくても良い。さらに、包装容器1を透明な合成樹脂部材にて形成して凹部6内を外部から認識できるようにしたが、透明でなくて

10

20

30

40

50

も良い。

【符号の説明】

【0032】

1 包装容器

2 容器本体

3 ミシン目

4 ヒンジ部

5 蓋体

6 凹部

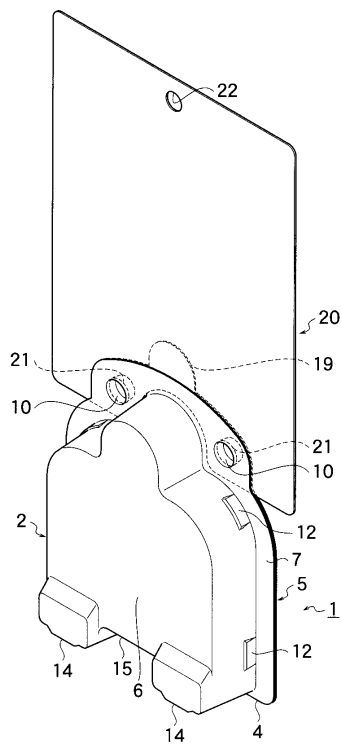
8 凸部

12, 13 第2の係止部（係止部）

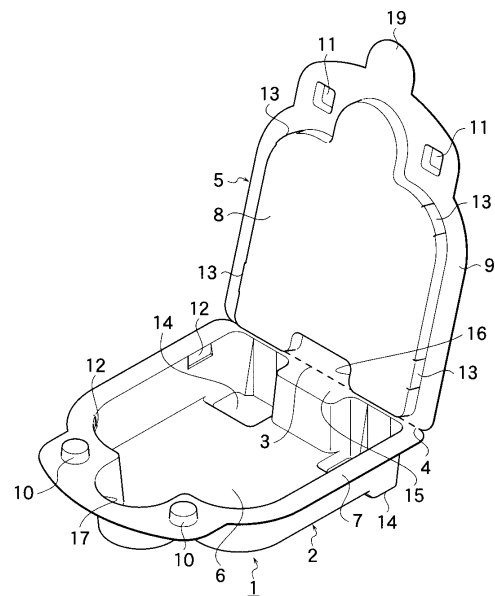
30 芳香具（収容物）

10

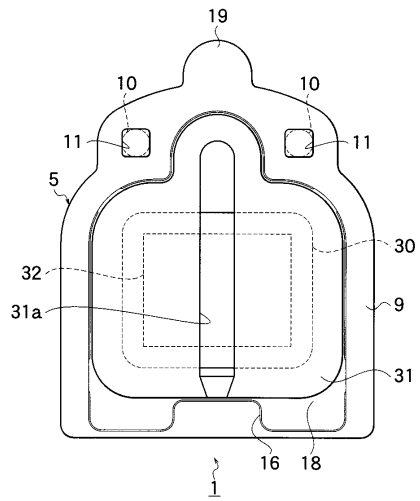
【図1】



【図2】



【図 3】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
B 6 5 D 1/26

(72)発明者 三枝 克己
東京都墨田区文花 2-1-3 花王株式会社研究所内

(72)発明者 平原 穂積
東京都墨田区文花 2-1-3 花王株式会社研究所内

審査官 石田 宏之

(56)参考文献 登録実用新案第 3 0 3 0 9 4 6 (J P, U)
登録実用新案第 3 0 4 9 3 9 3 (J P, U)
特開平 0 8-3 1 0 5 5 0 (J P, A)
実開平 0 4-1 1 8 3 1 3 (J P, U)
特開平 1 1-1 9 8 9 6 5 (J P, A)
実開平 6-3 9 7 4 7 (J P, U)
実公昭 4 7-4 2 6 8 (J P, Y 1)
実開昭 5 7-1 7 4 3 2 0 (J P, U)
実開昭 6 0-7 8 7 1 1 (J P, U)
実開平 0 1-6 3 6 1 6 (J P, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., D B名)
B 6 5 D 4 3/1 6
B 6 5 D 4 3/2 2
B 6 5 D 7 5/2 2
B 6 5 D 1/2 6